

吉田城址で「敷金^{しきがね}」が初めて出土しました

豊橋市指定史跡・吉田城址は、徳川四天王筆頭である酒井忠次や、世界遺産・姫路城を現在の姿に改修した池田照（輝）政など名だたる武将が城主を務めた、東海地方でも屈指の名城です。現在でも豊橋公園を中心に、石垣や土塁、堀などの貴重な遺構が残されています。

令和5年6月から11月にかけて、本丸の南多門で石垣の発掘調査を行ったところ、石垣内部で石材の角度を調整する「敷金（しきがね）」が破片含め9点出土しました。



「敷金」の出土状況



出土した「敷金」

ポイント① 三河地方で初めての出土

「敷金（しきがね）」は石垣内部で石材の角度を調整する鉄製の部材で、大きさは長さ10cm、幅5cm、厚さ2cmほどのものです。江戸城や名古屋城といった、江戸時代初頭に石垣が築かれた全国の名城から出土しています。今回、吉田城址で破片を含め9点の敷金が出土しました。これは三河地方で初めての出土になります。また、クサビ状のものがあり、敷金と石材に残る「矢穴（やあな）」の大きさから、石を割る際に用いる「矢（や）」が転用された可能性があります。

ポイント② 江戸時代前期～中期に使用か

発掘調査の出土遺物や、地震の被害記録を記した絵図等から、出土した「敷金」が敷かれた年代をある程度推定することができます。

出土遺物の特別公開

日時：令和6年3月1日（金）～4月21日（日） 9:00～17:00

会場：豊橋市美術博物館 展示室6（見学無料）

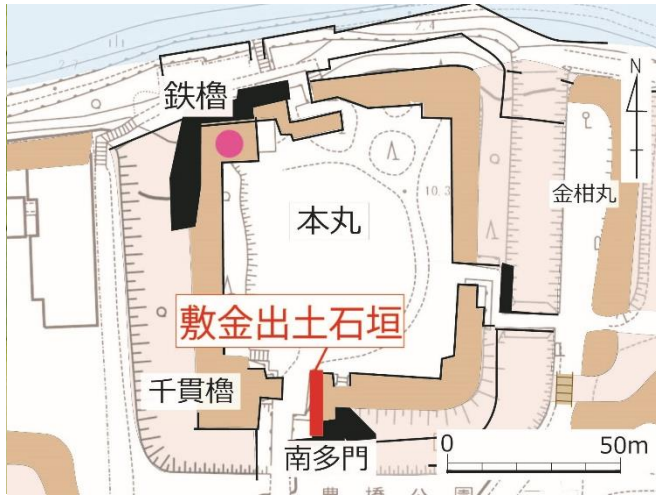
内容：発掘調査で出土した「敷金」を始め、今年度の調査成果の速報展示を行います。

その他：美術博物館は、4月7日までは無休で開館。以降は月曜休館です。

展示には原形をとどめる8点を展覧します。

展示終了後は保存処理や整理作業のため、当面の期間は見ることはできません。

問合せ 教育部美術博物館 文化財センター 学芸員 寺井（電話 56-6060）
教育部美術博物館 学芸員 中川（電話 51-2882）



「敷金」が出土した位置

敷金は、本丸南側の出入り口である南多門の東側石垣から出土しました。石垣の上部から下部にかけて、主に北西隅と西面南側に散在して出土しています。使用された位置に規則性は見出しにくく、石材を積み上げる際に個別に判断して使用されたものと考えられます。



参考資料：「矢」と「矢穴」

大きな石から石材を割り出す際には、「矢穴」と呼ばれる穴を掘り、そこに「矢」を入れ、上から玄能（ハンマー）で打ちつけます。矢穴と矢は矢穴の開口部で接し、打ち付けた玄能が矢穴に矢を押し込む力で亀裂を入れ、石を割ります。

今回出土した敷金が矢であるかどうかは、今後行う保存処理での破片の接合によって明らかになります。

《参考》発掘調査を行った石垣について

吉田城の本丸正面入口に築かれていた、『南多門（みなみたもん）』の土台となっていた石垣です。現況の規模は東西約6.5m、南北約18.7m、高さ約4.5mです。長年にわたる損傷が蓄積していたため、令和5年度に解体修復工事と、それに伴う発掘調査を行いました。発掘調査期間は令和5年6月12日～11月5日です。

速報展示の取材について

報道関係者の現地取材を、下記の期間で随時受け付けます。

3月1日（金）～3月7日（木）

取材前に、下記の担当までご連絡ください。

担当：文化財センター 寺井（56 - 6060）

美術博物館 中川（51 - 2882）